

平成 26 年 1 月 15 日

報道各社 御中

環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）  
特定非営利活動法人 ボランティアネイバース

平成 25 年度中部地域における持続可能な地域づくりを担う人材育成事業に係る  
E S D 環境教育プログラムの作成・展開業務  
取材のご依頼

拝啓 貴社ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より環境省中部環境パートナーシップオフィスの事業へのご支援・ご協力賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、標記本事業は、2014 年度に日本で開催される「ESD(持続可能な開発のための教育)ユネスコ世界会議」を前に、環境省が環境と経済と社会が統合的に向上する持続可能な地域づくりには、優良な環境教育プログラムを通じた人材育成が必要不可欠とし、昨年開催された「リオ+20」での ESD の更なる促進について合意や、我が国が表明した「緑の未来」イニシアティブ、さらに平成 26 年に開催される「ESD に関するユネスコ世界会議」に向けて、持続可能な社会を担う人材づくりや環境教育プログラムの作成等の一層の推進が大変重要であるとの認識が我が国内外で共有されたことにより展開される事業です。

具体的には、「持続可能な地域づくりを担う人材づくりの先進地域を形成すること」を目的として、環境省がとりまとめたモデル的な ESD プログラムを基に、各県（富山、石川、福井、長野、岐阜、愛知及び三重）における地域性を踏まえた小中学生向けの ESD プログラムを作成・実証する事業です。併せて、ESD 及び環境省の取組の普及・啓発イベント等を実施することにより、学校・地域の教育現場における ESD の推進を図ることを目的としています。

つきましては、ぜひ報道関係者の皆様に、本事業の授業実施もしくは報告会に取材にきていただき、ESD の意義や学校教育における現状について多くの人々にお伝えいただきたいと考えております。大変ご多忙とは存じておりますが、どうぞ宜しくお願いいたします。別添に詳細及び企画書を送付させていただきます。

なお、ご不明な点がございましたら、下記までご連絡をいただくと幸いです。

敬 具

環境省中部環境パートナーシップオフィス

担当 新海洋子 高橋美穂

電話 052-218-8605

FAX 052-218-8606

Email: office@epo-chubu.jp

平成 26 年 1 月 15 日

報道各社 御中

環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）  
特定非営利活動法人 ボランタリーネイバース

平成 25 年度中部地域における持続可能な地域づくりを担う人材育成事業に係る  
E S D 環境教育プログラムの作成・展開業務  
「坂井市立鳴鹿小学校 ESD 授業」実施のご案内

拝啓 貴社ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より EPO 中部の事業について、ご支援・ご協力賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、標記のとおり、ESD 授業の実施日が決定いたしましたので、ご案内させていただきます。

お忙しいところ大変恐縮ですが、ぜひ取材をお願いしたくよろしくお願いいたします。

大変恐縮ですが、出欠のお返事を事務局（EPO 中部）までご連絡をいただけると幸いです。

ご不明な点等ございましたら、下記までお問い合わせいただけますよう、よろしくお願いいたします。

#### 記

- 日時：2014 年 1 月 23 日（木） 10：45～12：25
- 場所：坂井市立鳴鹿小学校 3 年生教室（坂井市丸岡町楽間 4-40）
- 対象：3 年生 22 名
- 授業内容（環境映像教材を使用する）

鳴鹿小学校のビオトープ再生を目標に、生き物のつながりや鳴鹿地域の自然環境の変遷について、地域の人と関わりながら活動をし、学習してきた。これまでの学習をまとめるとともに、今後どんなビオトープをつくりたいか、鳴鹿の自然を守っていききたいかについて考え、意見交換する。

※当日連絡先 EPO 中部新海携帯（090-7024-5090）

環境省中部環境パートナーシップオフィス

担当 新海洋子 高橋美穂

電話 052-218-8605

FAX 052-218-8606

Email [office@epo-chubu.jp](mailto:office@epo-chubu.jp)

名古屋市中区錦 2-4-3 錦パークビル 4F

# 持続可能な地域づくりを担う人材育成事業 企画書

作成 環境省中部環境パートナーシップオフィス

## 目的

持続可能な地域づくりを担う人材づくりの先進地域を形成する。環境省が公募し採択した20のESDプログラム（別添参照）をモデル化し、各県の地域性を踏まえた小・中学生向けのESDプログラムを作成し、授業実施をする。さらに、普及啓発を行う。

「環境と経済と社会が統合的に向上する持続可能な地域づくりには、優良な環境教育プログラムを通じた人材育成が必要不可欠である。昨年6月に開催された「リオ+20」において、ESDの更なる促進について合意されるとともに、我が国が表明した「緑の未来」イニシアティブにおいても、平成26年に我が国で開催予定の「ESDに関するユネスコ世界会議」に向けて、持続可能な社会を担う人材づくりや環境教育プログラムの作成等の一層の推進が示されたところである。このため、持続可能な地域づくりを担う人材づくりの先進地域を速やかに形成することを目的として、環境省がとりまとめたモデル的なESDプログラム※（以下「モデルプログラム」という。）を基に、中部地方環境事務所管内（以下「管内」という。）の各県（富山、石川、福井、長野、岐阜、愛知及び三重の各県をいい、以下「各県」という。）において、地域性を踏まえた小中学生向けのESDプログラム（以下「地域プログラム」という。）を作成・実証する。併せて、ESD及び環境省の取組の普及・啓発イベント等を実施することにより、学校・地域の教育現場におけるESDの推進を図る。環境省中部地方事務所仕様書より抜粋

## 事業内容

### ①中部ESD環境教育プログラム形成推進委員会の設置・開催（7名程度 2回程度）

各県WG代表（主に有識者）で構成する。

【開催日時】 第1回2013年11月8日（金）11:00～14:00 EPO中部（名古屋市内）

第2回2014年2月10日（月）11:00～15:00 環境省中部地方事務所（名古屋市内）

### ■形成推進委員会委員（敬称略）

	地域	名前	所属	備考
1	富山県	松本 謙一	富山大学人間発達科学部教授	
2	石川県	鈴木 克徳	金沢大学環境保全センター長・教授	
3	福井県	前園 泰徳	福井大学教育地域科学部特命准教授	
4	長野県	中澤 朋代	松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科専任講師	
5	岐阜県	巽 徹	岐阜大学教育学部教授	
6	愛知県	千頭 聡	日本福祉大学国際福祉開発学部教授	
7	三重県	松岡 守	三重大学教育学部教授	

### ②ワーキンググループの設置(中部7県各1WG5名程度)

各県の有識者、NPO、教育委員会、自治体、事業者、教育関係者等と地域性を踏まえたESDプログラムの作成と授業実施、啓発イベントなどを行う。

※映像教材を作成し、より授業を豊かなものにし、映像プログラムの実施者を各県2名程度育成する。

### ■実施校・教育委員会への協力依頼事項

- ①ワーキンググループへの参加（3回程度）と地域のESDプログラム作成
- ②作成したESDプログラムの一部授業の実施と、普及啓発ワークショップ実施
- ③授業に使用する映像機器、視聴覚室利用
- ④地方紙等広報等

■各県ワーキンググループメンバー（敬称略）

	名 前	所 属	備 考
富山県 6名 日時： 9/19 10/3 11/25	松本 謙一	富山大学人間発達科学部教授	形成推進委員
	武島 浩	富山市立古沢小学校校長	
	酒井 祥子	富山市立古沢小学校教諭	
	福田 有児	富山市立神通碧小学校教頭	
	本田 恭子	環境教育ネットワークとやまエコひろば	
	八田 哲典	富山県生活環境文化部環境政策課	
	公益財団法人富山市ファミリーパーク公社 企画事業課普及事業係		協力
	NPO 法人きんたろう倶楽部		協力
石川県 6名 日時： 10/4 11/7 未定	鈴木 克徳	金沢大学環境保全センター長・教授	形成推進委員
	池端 弘久	キゴ山少年自然の家 館長	
	松坂 浩一郎	金沢市立泉中学校 校長	
	浜中 真希	金沢市立泉中学校 教諭	
	新 広昭	石川県環境部地球温暖化対策室室長	
	青海 万里子	金沢エコライフクラブ代表	
	石川県教育委員会		協力
福井県 6名 日時： 11/8 1/9 1/23	前園 泰徳	福井大学教育地域科学部特命准教授	形成推進委員
	前 義隆	坂井市立鳴鹿小学校 校長	
	浅野 正樹	坂井市立鳴鹿小学校 教諭	
	黒川 光憲	福井県安全環境部環境政策課	
	吉川 守秋	NPO 法人エコプランふくい 事務局長	
	浅井 光	ふくいユネスコ協会	
	荒川 誠	福井県教育委員会	協力
	長野県 9名 日時； 11/1 11/28 12/17	中澤 朋代	松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科専任講師
小室 邦夫		松本市立源池小学校 校長	
赤木 文子		松本市立源池小学校 教諭	
渡辺 隆一		信州大学特任教授	
中林 直子		中信地区環境教育ネットワーク	
宮崎 進		長野県環境部環境政策課	
宮島 和雄		一般社団法人長野県環境保全協会	
伊與部 亮		一般社団法人長野県環境保全協会中信支部事務局	
藤村 哲		体験創庫かけはし	
★松本市教育委員会		協力	
★長野県教育委員会		協力依頼予定	
岐阜県 5名	巽 徹	岐阜大学教育学部教授	形成推進委員
	桐村 良昭	岐阜市立長森南中学校 校長	

日時： 10/8 12/17 1/29	長屋 亮司	岐阜市立長森南中学校 教務主任	
	小林 由紀子	NPO 法人 e-plus 生涯学習研究所	
	高木 乃里	岐阜県環境生活部環境生活政策課政策企画係	
	★岐阜市教育委員会学校指導課		協力
	★岐阜県教育委員会		協力依頼予定
愛知県 7名 日時： 10/9 11/13 11/19	千頭 聡	日本福祉大学国際福祉開発学部教授	
	榊原 将道	東浦町立緒川小学校 教頭	
	原 伊津子	東浦町立緒川小学校 教諭	
	浜口 祐子	NPO 法人もりの学舎自然学校	
	酒井 祥宣	愛知県環境部環境活動推進課	
	大村 啓	愛知県環境部環境政策課	
	堀 利明	名古屋市環境局環境企画部環境企画課課長	
	★愛知県教育委員会		協力依頼予定
★東浦町教育委員会		協力	
三重県 8名 日時： 10/22 11/27 1/22	松岡 守	三重大学教育学部	
	谷戸 実	名張市立薦原小学校 校長	
	森 恭一	名張市立薦原小学校 教諭	
	松田 淑子	名張市立薦原小学校 教諭	
	布本 肇	名張市教育委員会 学校教育室 指導主事	
	矢口 芳枝	四日市大学エネルギー環境教育研究会	
	寺田 卓二	四日市自然保護推進委員会	
	内田 郁夫	三重県環境生活部地球温暖化対策課 環境評価・活動班副参事	
★三重県教育委員会小中学校教育課学力向上班		協力	

### ③地域のESDプログラムを作成

各県においてモデルプログラムの中から1プログラム(10 単位時間程度)を、各県ごとに地域化する。なお、作成するプログラムは広く活用できるように学校等の教育現場で実施しやすいものにする。

	地域	番号	プログラム名	提案された学校・団体
1	富山県	6	生き物たちとの持続可能な社会を考えよう (自然調和型社会学習プログラム)	岡崎市立新香山中学校
2	石川県	6	生き物たちとの持続可能な社会を考えよう (自然調和型社会学習プログラム)	岡崎市立新香山中学校
3	福井県	11	里山ピオトープから“いのちの輝き”伝えよう	豊田市立西広瀬小学校
4	長野県	6	生き物たちとの持続可能な社会を考えよう (自然調和型社会学習プログラム)	岡崎市立新香山中学校

5	岐阜県	9	地球温暖化を学び学校の省エネを考える 「フィフティフィティ」プロジェクト	特定非営利活動法人 FoE Japan
6	愛知県	18	レッツゴー！エコキッズ	富山市立中央小学校
7	三重県	6	生き物たちとの持続可能な社会を考えよう (自然調和型社会学習プログラム)	岡崎市立新香山中学校

#### ④ESDプログラムを授業等にて実施

決定し地域化した ESD プログラムの一部を学校出前授業等で 2 単位（45 分 2 コマ、90 分 1 コマ）程度実施する。実施するプログラムのうち最低 1 回は 1 単位時間当たり 6～12 分程度の映像を活用し行う。小中学生を対象にアンケートをとり、ESD への理解度等、作成したプログラムの評価を行う。

※映像については、(株)TREE 様の企画により製作されます。選択したモデルプログラムを地域性を踏まえた ESD プログラムに作り直した際に、副教材として必要な映像を撮影、教材化をし、教材の活用方法をレクチャーを踏まえて活用いただくこととなります。

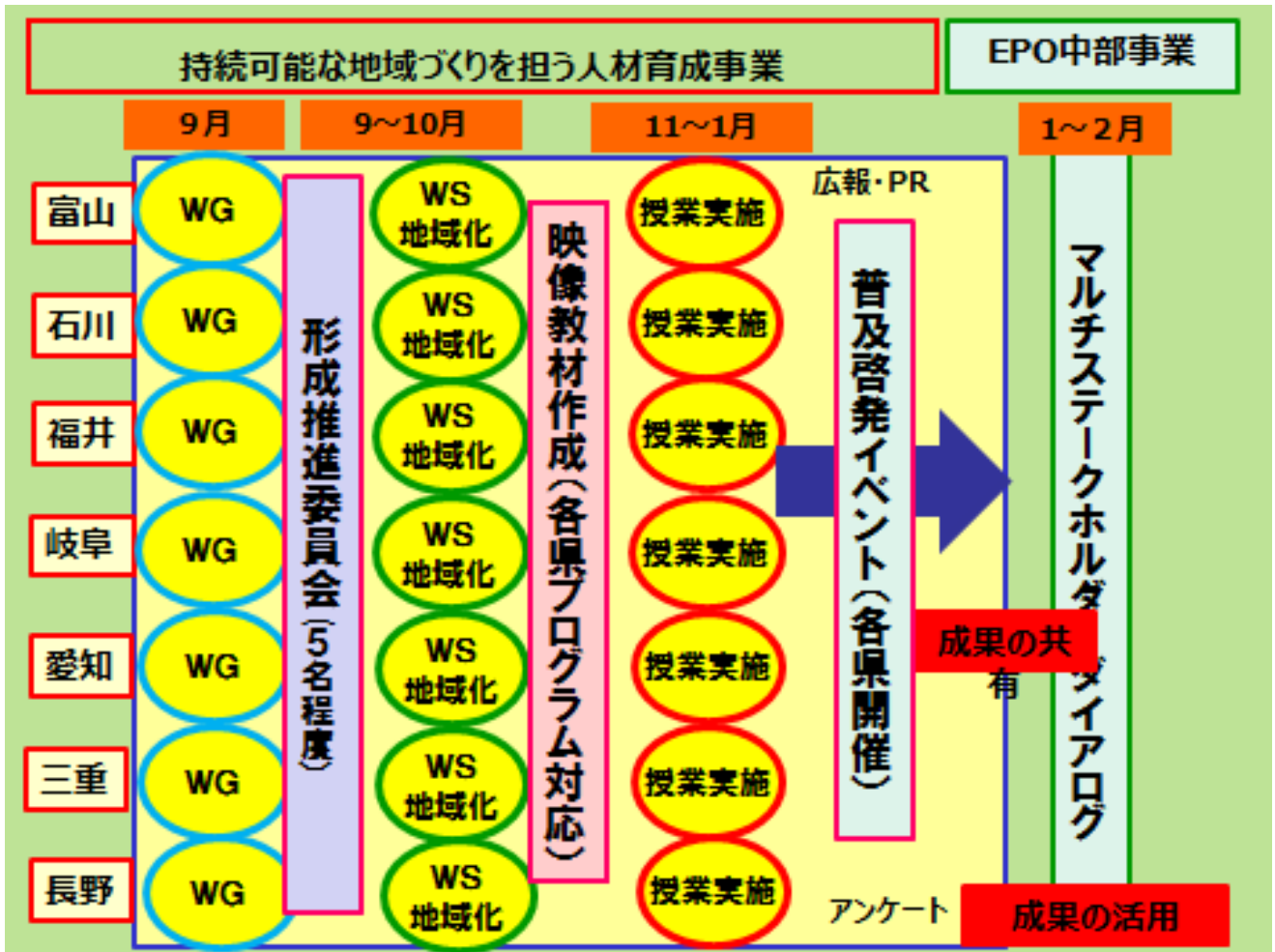
	地域	番号	プログラム名	実施する学校と対象学年 実施授業数
1	富山県	6	生き物たちとの持続可能な社会を考えよう (自然調和型社会学習プログラム)	富山市立古沢小学校：4 年生 総合的な学習の時間 45 分×2 コマ
2	石川県	6	生き物たちとの持続可能な社会を考えよう (自然調和型社会学習プログラム)	金沢市立泉中学校：1 年生 総合的な学習の時間 50 分×2 コマ
3	福井県	11	里山ビオトープから“いのちの輝き”伝えよう	坂井市立鳴鹿小学校：3 年生
4	長野県	6	生き物たちとの持続可能な社会を考えよう (自然調和型社会学習プログラム)	松本市立源池小学校：3 年生 総合的な学習の時間 45 分×2 コマ
5	岐阜県	9	地球温暖化を学び学校の省エネを考える 「フィフティフィティ」プロジェクト	岐阜市立長森南中学校：1 年生 総合的な学習の時間 50 分×2 コマ
6	愛知県	18	レッツゴー！エコキッズ	東浦市立緒川小学校：4 年生 総合的な学習の時間 90 分×1 コマ
7	三重県	6	生き物たちとの持続可能な社会を考えよう (自然調和型社会学習プログラム)	名張市立薦原小学校：4 年生

#### ⑤普及啓発事業とワークショップ開催

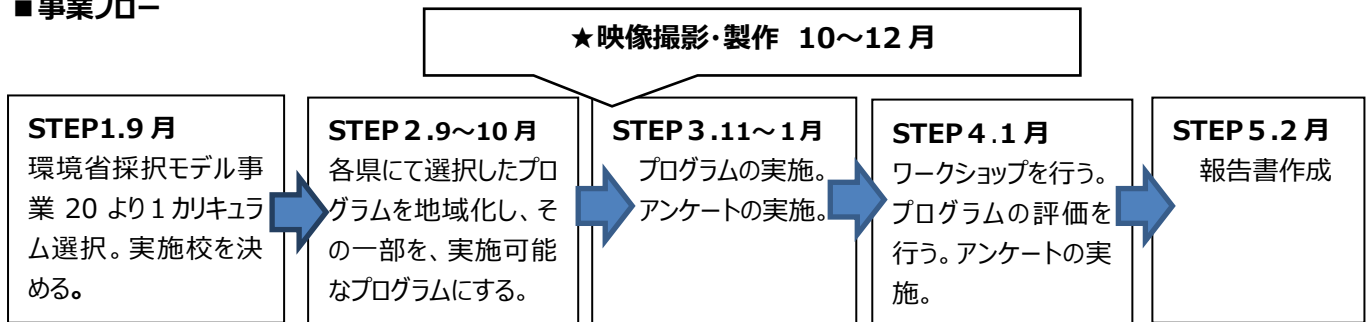
本事業と ESD の周知、ESD プログラムを授業実施した報告・評価（事前の場合は意見・アイデアを聞くための場とするためのワークショップを行う。チラシ作成、地方紙への掲載等を行う。

	地域	日時	イベント名	取材
1	富山県	1 月 25 日（土）	ESD シンポジウム	北日本新聞社
2	石川県	2 月 20 日（木）	未定	
3	福井県	2 月 23 日（日）	公民館三世代交流会	福井新聞社
4	長野県	1 月 16 日（木）	源池こども大学	信濃毎日新聞社
5	岐阜県	2 月 22 日（土）	岐阜市主催エコクラブ発表会	岐阜新聞社
6	愛知県	1 月 17 日（金）	EPO 中部主催 SH ダイアログ	朝日新聞社・中日新聞社
7	三重県	2 月 15 日（土）	三重県ユネスコスクール交流会	伊勢新聞社・中日新聞社

■事業フロー図



■事業フロー



●ワーキンググループ ：EPO 中部	●ワーキンググループ ：EPO 中部	●ワーキンググループ ：EPO 中部	●ワーキンググループ ：EPO 中部	●EPO 中部
	●撮影：(株)TREE			●(株)TREE
	●形成推進委員会		●形成推進委員会	



■事業スケジュール（各県の進捗によって異なります）

時期	各主体の動き				
	各県 WG	推進形成委員会	EPO 中部	TREE	備考
8月			第1回事務局会議 (名古屋) : 8月26日		●契約書
9月			各県 WG 調整 ●実施校決定		●協定書
10月	第1回 WG 会議		●WGメンバー選出交渉  第2回事務局会議 (名古屋) : 8月26日	●実施校との教材内容打合せ ●映像教材、ファシリテーターマニュアルの作成 ●映像ファシリテーターレクチャー	●各県説明 ●10/25 全国情報共有(東京)
	第2回 WG 会議 ●ESD 授業実践				●実施校の選定 ●11/6 全国情報共有(岡山)
11月	●ESD 授業実施	▼第1回 形成推進委員会			
12月	●ESD 授業実施				
1月	●ESD 授業実施 授業報告会 第3回 WG 会議				
2月		▼第2回 形成推進委員会		●業務報告書作成 ●アンケート分析・まとめ ●納品用映像教材 DVD ●業務報告書納品 (2/28)	